



「税」と「関」= 二つの顔を持つ機関

輸入品に税を課す徴税機関

税関においては、海外から輸入される貨物について関税及び消費税等を徴収しています。

〔関税の2つの目的〕

1 財政関税

税関による徴収額(消費税等含む)は、国税収入の約14.1%(令和2年度で約9.1兆円)を占め、重要な徴税機関です。

2 保護関税

輸入品に関税が課せられると、その分だけ輸入コストが増加しますので、国産品に対して競争力が低下し、関税の国内産業保護という機能が生まれます。

水際の関所としての取締機関

薬物、銃器を始め、テロ関連物資、知的財産侵害物品等の社会の安全安心を脅かす物品が国内に流通する前に水際で阻止しています。

2021年の全国税関における関税法違反事件の取締状況

〔押収量〕	不正薬物	約1,138kg
	銃砲	1丁
	金地金	約27kg
	知的財産侵害物品差止数量	約82万点

「世界一安全な国、日本」を築くため、使命を果たしていきます。

麻薬探知犬について

麻薬の匂いがあることをハンドラーに知らせると、ハンドラーは麻薬探知犬と遊んであげます。匂いを見つけると遊んでもらえるので、麻薬探知犬は一生懸命匂いを探しています。

麻薬探知犬は、人間の数万倍と言われる素晴らしい嗅覚をもっています。その素晴らしい能力を活用して輸出入貨物、郵便物、海外旅行者の荷物の中に紛れた麻薬の匂いを見つけ出すことができます。麻薬の匂いを嗅ぎつけるとお座りして、ハンドラー(税関職員)に知らせます。

【導入の経緯】

1979年にアメリカ税関の協力を得て、増大する麻薬類の密輸入を防止する目的で導入したのが始まりです。現在は、全国の税関に約130頭が配備し、不正薬物等の摘発に貢献しています。